



テーマ

卒業記念品 オルゴール&硯箱



第14期（高等学校）
卒業記念品 オルゴール

第1期（大学）
卒業記念品 硯箱

将軍山会館に第7期の卒業記念品（硯と水滴が入った硯箱）が展示してあります。



寄贈 松本和夫氏

懐かしく思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 写真上の茶色の木製小箱は、山桜をモチーフにした校章が中央にあしらわれ、蓋を開けるとやさしい音色で「学院歌」が流れるオルゴールです。裏には「第14期祝御卒業 1996年3月追手門学院高等学部 P. T. A」と記されています。

もうひとつの黒塗りの小箱は、蓋に梅の花をあしらった漆塗の硯箱。箱の中には、硯と水滴がセットされていた様です。この蓋の裏には大学の校章と「贈 追手門学院大学第一回卒業生 学而不思則罔 思而不学則殆 昭和四十五年三月二十五日 追手門学院大学 PTA一同」とあり、孔子の言葉、論語より「学而不思則罔 思而不学則殆」が引用されています。「学んで思わざれば則ち罔し（くらし）。思うて学ばざれば則ち殆し（あやうし）。」当時、天野利武学長が卒業生の心に深く刻んでほしいと思う言葉をひとつ選ばれたそうです。

追手門学院は 1888 年（明治 21 年）に、大阪借行社附属小学校として開校しました。大学は、1966 年（昭和 41 年）に学院創立 80 周年記念事業の一環として創立されました。そして、翌年には中・高校を大手前校地に一部を残し、茨木校地に移転するなど学院にとって大きな節目の時期となりました。この年を境にして史資料が散らばってしまい、学院創立 120 周年記念事業で各学校園では学舎の建て替えが行われ、その時にも多くの資料が失われてしまいました。

大学で、収集に苦慮をしているのが学生達の学生生活に係わるものです。学科・ゼミの発表記録・ゼミ懇親会・学外見学記録や写真、課外活動では各団体の活動記録・合宿・出版物・コンサートプログラム・発表記録・対外試合記録や活動写真等の収集であります。これらの収集には、学生達の協力が不可欠です。

収集・保存されるべき様々な史資料は、それぞれの時の先人たちが学校園で学んだことや教員が伝えたこと、学校の運営に係わったことなどの歴史的記録や今後の資料となりうるものであります。学院志研究室ではこうした史資料を集め収集・整理・保存を行い、現在・未来において自校教育や年史編纂などに有意義に活用を図ることを目的にしております。収集には、お一人お一人のご協力をお願い致します。



（第 1 回大学祭パンフレット等）

〔活動日誌〕

- 2015 年 12 月 学院（幼稚園・小中高）の歴史資料見学及び校（園）長へ挨拶（藤原・田村）
- 2016 年 1 月 22 日 関東学院大学（山田昭子様） 自校教育のヒアリングのため来校（梅村室長）
- 2016 年 2 月 10 日 成蹊学園史料館見学（豊島）
- 2016 年 3 月 4 日 和歌山大学附属図書館「図書館の資料保存」講演会出席、桃山学院史料室見学（田村）
- 2016 年 3 月 7 日 第 1 回 学院志研究室会議
- 2016 年 「中高 70 年志」茨木キャンパス移転に関する調べ（藤原）

〔受贈報告〕（学外）

- 2015 年 10 月 ミッ柳明紀氏（追手門学院大学 第 1 期卒業生）
- 2015 年 12 月 西川喜朗氏（追手門学院大学名誉教授）
- 2016 年 1 月 吉田浩幸氏（追手門学院大学 第 6 期卒業生）
- 2016 年 2 月 松本和夫氏（追手門学院小学校 第 71 期、中高第 14 期、大学第 1 期卒業生）
- 2016 年 3 月 吉田實氏（追手門学院大学 第 1 期卒業生）
- 2016 年 3 月 平木宏児氏（追手門学院大学名誉教授）
- 2016 年 3 月 立花元彦氏（追手門学院大学 第 1 期卒業生）

資料の寄贈・提供のお願い

学院志研究室では、追手門学院大学および学院に関する資料を、広く収集しています。創立者及び学院関係者の諸資料、広報誌などの学内刊行物、教職員・学生・生徒の出版物、写真、記念品など、学院の歴史に関する資料がございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

